

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	地誌学 (Regional Geography)		授業コード	K004351
担当教員名	土居 晴洋		科目ナンバリングコード	
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修(中学社会)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	「地理学概論A・B」を合わせて履修することが望ましい。特に「地理学概論A」で学ぶ地理学の基礎を理解していることを前提として講義を進める。			
受講心得	新聞・テレビ等で得られる中国に関する報道を日常的に把握する努力をする。また、適宜、課題を課すので、期限内に提出する。			
教科書				
参考文献及び指定図書	『中国地理概論』季増民著、ナカニシヤ出版			
関連科目	地理学概論A, 地理学概論B			

授業の目的	21世紀の現代世界を理解する上で欠くことのできない中国について、地誌学の立場から理解を深める。地域を理解するためには、さまざまな視点から見る必要があるが、本講義では、特に現代中国を理解するために重要な視点に絞って論ずる。□
授業の概要	地域を地誌学で理解することの特色と意義を理解したうえで、世界の中で中国が置かれた「位置」について理解する。その後、現代中国を理解するうえで重要と思われる、人口や都市、産業などを取り上げ、政治経済的変化と重ね合わせながら、地域的特質について考察していく。□

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：中国を地誌学で捉える意味</b> 地理学における地誌学の位置付けを確認するとともに、本講義で中国を取り上げる意味を整理する。受講生の中国に関する興味・関心を述べてもらい、それらが本講義で取り上げる主題と関連することを理解する。	配付資料 自身の中国に対する関心の確認
<b>第2週：中国の位置と広がり</b> 絶対的位置と相対的位置の概念を理解する。その後、中国の全体的位置と相対的位置、および広がりの特徴について考察し、世界やアジア、日本との関連において、それらが持つ意味や重要性について考える。	配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの確認
<b>第3週：中国の自然条件</b> 広大な国土における自然条件の多様性と地域的な特質について理解する。その際、日本との比較において、中国各地の自然条件の類似性と特殊性に言及する。次週以降に予定する中国の人文社会的な特質を理解するための基礎となるものである。	配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの確認
<b>第4週：現代中国の政治経済</b> 現在の中国社会は、1949年の建国後に導入された独特の政治経済システムによって成り立っている。特に1978年に始まった改革開放政策の以前と以後とは大きく異なるが、そのいずれもが現在の中国社会の有り様を理解する上で大事である。	配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの確認
<b>第5週：中国の人口変化と地域的分布</b> 中国の総人口は世界第一位であることは言うまでもないが、これまでの人口増減には、中国の過去の歴史や文化、政治などが反映されている。また、人口の分布には地域的な差異が大きく、そのことが現代中国を理解するうえで重要な要素であることを理解する。	配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの確認
<b>第6週：中国の民族と文化</b> 中国は多民族国家である。漢民族とその他の少数民族の理解は中国の歴史や文化を理解するうえで欠くことのできない。人口抑制策との関連も含めて、民族の分布と人口増減の傾向、さらにそれらが現代中国にどのような意味を持つのかを考察する。	配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの確認

<b>第7週：中国における都市の定義</b>		
中国における都市の概念について、実態としての都市と政策としての都市に分けて理解する。実態としての都市においては、中国における都市の起源を、政策としての都市においては、新中国成立以来の時代の社会経済情勢が反映されていたことを理解する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第8週：都市の地域的分布と成長</b>		
経済成長のエンジンとしての都市について考察する。都市の地域的分布からは国家的な経済成長の地域的な差異があること、都市の経済的機能は歴史的に変化していること、都市間の結びつきとしての都市システムなどについて理解する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第9週：中国都市の社会と生活</b>		
中国都市における「単位」の意味について考察する。「単位」は歴史的な中国社会の特質を投影したものであり、新中国成立以来以降に形成され、改革開放政策導入後も質的変容を伴いながら、現代中国においても維持されていることを理解する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第10週：都市地域の住宅開発</b>		
住宅のあり方はその国の歴史や文化を映す。新中国成立以来および改革開放後の都市地域における住宅供給の特徴とその要因・背景について理解する。また、近年の住宅開発の特徴とその問題点についても考察する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第11週：中国の農業地域区分</b>		
形式地域や実質地域といった地域概念について整理したのち、中国の農業地域の特徴について考察する。また、その背景として、気候や地勢などの自然条件の地域的多様性や民族や文化などがあることに言及する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第12週：食糧生産の現状と将来</b>		
人口増加と経済成長に伴い、食糧作物への需要は増大しているが、食糧生産の増加は必ずしも対応していない。一方で、果物などの商品作物の生産量が増加している。このような現状の要因や背景を理解し、世界的な食糧需給への影響にも言及する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第13週：現代中国の地域開発</b>		
地域の地誌的特徴は、その置かれた位置や自然条件、歴史的条件などの影響を受けるが、中国では地域開発政策の影響を無視することはできない。新中国成立以来に展開された地域開発政策を概観し、現代中国各地の様相に与えた影響について考察する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第14週：改革開放経済と地域開発</b>		
改革開放政策はそれまでの中国のあり方を劇的に変えた。特に経済特区に始まる工業開発政策は都市の機能を強化し、人口を吸引した。その結果、沿海地域と内陸地域の経済的格差が拡大した。現在はそのような弊害を軽減するための政策が実行されつつ ある。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第15週：中国の未来と世界</b>		
本講義を通じて、現代中国の様々な側面に関して地域的特質とその背景や要因を理解した。これをもとにして、日中関係や世界における中国の持つ影響について認識を新たにするとともに、それらの将来について展望する。		配付資料 地図・グラフ等の判読を中心とした復習とニュースの 確認
<b>第16週：期末試験</b>		
試験範囲は第15週までの全範囲とし、試験時間は90分とする。また、配付資料やノートなどの持ち込みは不可とする。		全配付資料、ノートによる 復習
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	日常的な中国に関するニュース・話題に関心を持つことができる。
<b>【知識・理解】</b>	地域の文脈の中で現代中国に関する基本的な知識を理解することができる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	基本的な主題図や統計資料の読解と考察を行うことができる。

<b>【思考・判断・創造】</b>	現代中国の現状や変化の背景や要因を考察することができる。
-------------------	------------------------------

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			5点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点		5点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	20点	5点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	10点		5点	
<b>(「人間力」について)</b>				
<p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	丁寧な作業の実施。技能の習得。
発表・その他 (無形成果)	積極的な授業への参加。